



長岡京市文化財保存活用地域計画

概要

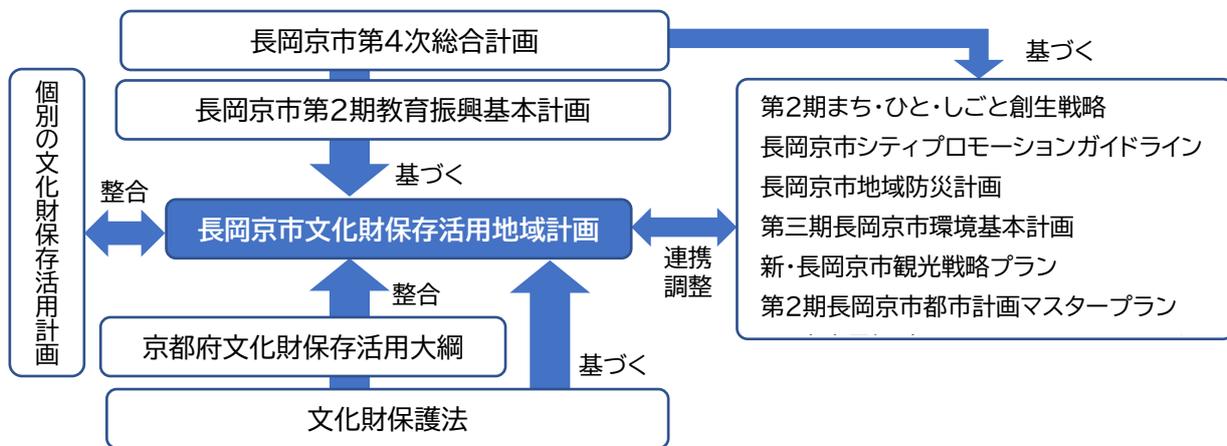


市制施行50周年から、次の50年へ！歴史文化のまちづくり

計画の目的・位置づけ

長岡京市は、6世紀前半に「弟国宮」、8世紀後半に「長岡京」と2度にわたって都が置かれ、王城の地として栄えてきました。市域には、国史跡「乙訓古墳群」や「長岡京跡」など、旧石器時代から現代にいたるまでの豊富な歴史文化が存在し、また、乙訓寺や光明寺、長岡天満宮をはじめとする多くの寺社や旧跡なども、永年にわたる人々の営みを有形・無形の文化財として今に伝えていきます。また、京都・大阪の二大都市を結ぶ中間に位置する地の利にも恵まれ、西国街道や丹波街道などの交通の要衝、京都の生活を支える農村、京都や大阪のベッドタウン、工業都市として、さまざまな時代のニーズに対応しながら、歴史文化が幾重にも重なり合い、豊かな自然や歴史資源、先端産業が調和するまちとして発展してきました。

令和4年、市制施行50周年を迎え、これまでの本市の歩みを振り返りながら、歴史文化を「ものがたり」として明らかにし、それらを構成する文化財を大切に未来へ継承するため、総合的・計画的な取組を進めていく指針として、「長岡京市文化財保存活用地域計画」を定めます。



これまでの文化財行政の取組

長岡京市が誕生した昭和47年(1972)頃は、急激な人口増加・都市化が進んでいました。そこで、誰もが健康で文化的に暮らしていけることができるよう、市では生活環境の向上等に関する基本条例や文化財保護条例をつくり、さらに昭和52年(1977)には「長岡京市民憲章」を定め、歴史や自然を活かし、みんなで力を合わせて生きがいのあるまちづくりを進めました。なかでも、昭和60年(1985)から始まった市史編さん事業では、10年以上の歳月をかけて専門家や市民などによる文化財の総合調査を行い、それらの成果に基づき、文化財の保存や活用を積極的に進めてきました。

一方で、調査・研究体制の整備や収蔵スペースの確保、公開拠点の整備、情報発信の強化、防災・防犯への対応、教育や観光、まちづくりなど多面的な活用への課題も多く、いっそう文化財の価値の共有を図りながら、みんなで活かし支える持続可能な取組が必要となっています。

- 1975 「長岡京市文化財保護条例」制定
- 1977 「長岡京市民憲章」制定
- 市文化財第1号に勝龍寺木造十一面観音像を指定(1977)
- 文化財担当職員採用(1978)
- 恵解山古墳が国史跡に(1981)
- 財団法人長岡京市埋蔵文化財センター設立(1982)
- 長岡京市史編さん事業(1985～1997)
- 長法寺七ツ塚古墳群の一部を都市公園として保存(1991)
- 勝龍寺城公園が開園(1992)
- 石田家住宅が国登録有形文化財に(2000)
- 中山修一記念館が開館(2002)
- 恵解山古墳公園が開園(2014)
- (仮称)長岡京市ふるさと資料館基本構想策定(2014)
- 乙訓古墳群が国史跡に(2016)

文化財の概要

		国指定	国登録	府指定(決定)	府登録	府暫定登録	市指定	未指定
有形文化財	建造物		24	1	1	14	4	247
	石造物						2	
	絵画	3		2		26(7)	8(6)	318
	彫刻	3		5		9(6)	5(5)	
	書跡・典籍					1		239
	古文書類			2		9	6	
	考古資料			1		12	7	
	歴史資料					2		
無形文化財								3
民俗文化財	有形民俗文化財						1	1
	無形民俗文化財							76
記念物	遺跡	1				1	4	129
	名勝地			1				15
	動物、植物、地質鉱物				1		4	4
その他	文化財環境保全地区など			1				7
計		7	24	13	2	74	41	1,039

※()内は、京都府暫定登録と市指定が重複しているもの。

文化財保存・活用の方針

キャッチフレーズ

—遷都—

歴史文化×めぐる。かしこ暮らしっくなまちにせんとう！

～7つのものがたり・8つのビジョン・4つの基本方針～

本市の歴史文化を、未来へ大切に守り、伝えていくためには、文化財行政だけでなく多様な主体が連携し、誰もが文化財に親しみ、その価値や歴史文化の魅力とともに磨き、楽しみながら次世代へつなげていく取組みが必要です。そのため、歴史文化の特徴から紡いだ「7つのものがたり」を共有しながら、文化財の保存・活用に関する現状と課題から導く「8つのビジョン」、さらに「4つの基本方針」を示し、わかりやすく総合的・一体的な取組みを進めていきます。

784年 長岡京遷都

都が置かれ、新しいまちづくりの息吹が溢れる

過去

7つのものがたり
8つのビジョン
4つの基本方針

「長岡京市文化財保存活用地域計画」

2022年
市制施行50周年

現在

未来

歴史文化の特徴「7つのものがたり」

本市の歴史文化の特徴(=長岡京らしさ)を見つけるため、自然環境、地形的特質などを踏まえながら、市民ワークショップなどを行い、ベースとなる「7つのものがたり」を導き出しました。長岡京市の文化財の価値や歴史文化の魅力を広く発信・共有し、多様な視点・分野で効果的に活用していきます。

7 stories.
8 visions.
4 policies.



歴史文化×めぐる。
長岡京市文化財保存活用地域計画。

要衝の地

きわめて高い利便性！人とモノ、文化をつなぐ要衝の地

1

- 河川・環境・鉄道、交通の結節点
- 長岡京市の歴史文化の基層

京都盆地の西の玄関口、交通の要衝として栄え、街道沿いの民家や道標などが今に歴史を伝えます。現在も、その利便性により、ベッドタウンと産業が共存しています。

【関連する文化財群】伊賀寺遺跡、西国街道、(旧)石田家住宅、(旧)中野家住宅、丹波街道、七反田橋梁など

大王の息吹

2 

- 中央政権の縮図、乙訓古墳群
- 古代人の営みを伝える集落跡

巨大な古墳が出現！大王の息吹を体感

古墳時代、大小さまざまな古墳がつくられ、現在もその息吹を体感することができます。当時の暮らしがわかる遺跡も数多く見つかっています。

【関連する文化財群】乙訓古墳群(長法寺南原古墳、恵解山古墳、井ノ内車塚古墳、井ノ内稲荷塚古墳、今里大塚古墳)など



長岡京王城

3 

- 基盤状街区とその遺構
- 都の暮らしを伝える出土遺物

ここがみやこ！「長岡京」王城の地

518年に「弟国宮」、784年に「長岡京」と2度にわたって都が置かれました。幻の都の解明に人生を捧げた中山修一氏の記念館も市内にあります。

【関連する文化財群】「蘇民将来」呪符木簡、長岡京邸宅跡出土土柱等、祭祀具、「長岡京発見之地」石碑など



信仰と遊観の地

4 

- 洛外西山とその麓に広がる信仰
- 都名所図会等に描かれた風景

幽閑とにぎわい！信仰と遊観の地

勝龍寺や楊谷寺、乙訓寺、光明寺、長岡天満宮など、信仰の地として、江戸時代の復興以降は周辺環境も含めた遊観の地として、多くの人々に親しまれています。

【関連する文化財群】楊谷寺、寂照院、勝龍寺、乙訓寺、光明寺、土御門天皇金原陵、長岡天満宮など



戦乱の舞台

5 

- 西岡衆による自治、乙訓惣国
- 細川藤孝の西岡支配と勝龍寺城

自治と戦乱の舞台！西岡衆と細川藤孝

戦国時代、周辺地域とともに西岡衆と呼ばれる連帯により暮らしが営まれました。細川藤孝が入った勝龍寺城は、山崎合戦で明智光秀の拠点となり、天下統一の舞台となりました。

【関連する文化財群】神足城跡、開田城跡、今里城跡、勝龍寺城土塁・空堀跡、山崎合戦明智光秀本陣跡候補地など



京都近郊農村

6 

- 京都郊外の地域的・歴史的特徴
- 伝統行事・食文化・農産物などに見る豊かな暮らし

京都の繁栄を支えた！京都近郊農村の暮らし

京都の近郊農村として都を支えながら、地域ならではの庶民文化や伝統行事、食文化などが栄えました。また、用水確保やそれにまつわる歴史文化も残っています。

【関連する文化財群】算額、今井用水、儀仗(議定)池、オコナイ、オセンド、サイマツリ、いとこ汁など



竹とタケノコ

7 

- 古代にさかのぼる竹との関係史
- 継承されるタケノコ栽培文化

ピカイチ特産物！竹とタケノコ

乙訓地域の竹は竹材として古くから利用され、またモウソウチクの良質なタケノコは京都市式軟化栽培により本市を代表する特産物として、現在も広く知られています。

【関連する文化財群】乙訓のタケノコ栽培用具、寂照院のモウソウチク林、孟宗竹の由来など



8つのビジョン・4つの基本方針

ビジョン	① 調査・研究の充実	② 価値の共有	③ 確実な保存・継承	④ 防災・防犯の推進	⑤ まちづくりへの活用	⑥ 観光連携の強化	⑦ 生涯学習の充実	⑧ 協働体制の推進
	調査・研究の充実と価値の共有	着実な保存・管理と継承	まちづくりへの活用	みんなで支えるしくみづくり				
基本方針	継続的・戦略的な調査・研究を進めます。また、情報発信を強化し、歴史文化の魅力を磨いていきます。	文化財の指定等により、着実な保存・修理を進めます。また、防災訓練や防災・防犯設備整備の支援などを進めます。	文化財保護を前提としながら、観光振興や景観、環境などへの活用を進めます。	学校教育や社会教育と連携した取組や多様な人材の育成など、みんなで支え合えるしくみやしかけづくりに努めます。				
	主に文化財部局が取り組むミッション		みんなで取り組むミッション					

重点的に取り組む措置(リーディングプロジェクト)

地域計画による措置のうち、先導的に進めることで、さまざまな主体による連携を促し、計画全体を横断的に関連付け、相乗的な効果が期待できるものを「リーディングプロジェクト」と位置づけ、重点的に取り組みます。

措置8 (仮称)長岡京市ふるさと資料館の整備 歴史文化の発信拠点として、また、まちなか博物館ネットワークの中心施設として機能する歴史資料展示室を、市役所新庁舎に整備し、市民等が文化財に身近に触れられるよう取組を進めます 【コンセプト案】 過去と現在、未来をつなぐ、7つのものがたりを発信 【整備方針案】 ①本物とデジタル技術を活用した展示、体験展示を展開します ②市の通史的な理解を深め、市内周遊へ誘います ③テーマに沿った企画展示を行います(他館からの資料展示も可能) 【整備計画】 新庁舎2階に歴史資料展示室、7階に歴史資料収蔵室を整備します	1. 調査・研究の充実と価値の共有	措置18 国史跡乙訓古墳群の公有化と整備・維持管理 乙訓古墳群保存活用計画に基づき、史跡の公有化とともに、公有化した史跡の整備を進めます。また、適切に維持管理し、さらなる活用についても検討します
	2. 着実な保存・管理と継承	
措置32 周遊サイン等の整備・多言語化 まちなか博物館ネットワークを充実させるため、周遊を促す案内板等サインの整備及び説明板の多言語化を進めます 【コンセプト案】 まち全体を大きな博物館に見立て、市内に点在する有形・無形の文化財やその周辺環境をよりよい形で保全しながら、展示・公開に供し、それぞれをネットワークでつなぐ、「まちなか博物館ネットワーク」を形成します 【整備方針案】 ①統一的でわかりやすい周遊サインの整備、多言語対応 ②デジタル技術を活用した周遊ツールの活用(QRコード、周遊アプリ、解説動画など)	3. まちづくりへの活用	措置50 財源確保のための取組推進 ふるさと納税やクラウドファンディング等を活用した、歴史文化の保存・活用のための財源確保に向けた取組を進めます
	4. みんなで支えるしくみづくり	